

相手に伝わりやすい文章を書く力を育てる学習指導の工夫  
～「自分の思いを伝える」生活作文を書くことを通して～

東栄町立東栄中学校 篠原 由忠

## 1 主題設定の理由

### (1) 生徒の様子やこれまでの実践の反省から

本校の2年生は、男子10名、女子13名の計23人である。多くは授業中積極的に発言することができる。授業の最後を書く「振り返り」では、半数近くの生徒が反省や感想を枠いっぱい記述するなど、学習に対して前向きに取り組める。4月に行った物語単元のまとめでは、登場人物に手紙を書いた。どの生徒も意欲的だったが、何度も同じ言葉を繰り返したり、「うれしい」「楽しい」など直接的な心情を表す形容詞を多用したりして、読み手の心に迫る文章になりにくい生徒が多かった。また、効果的な文章構成がままならず、自分の思いを十分伝えられない。言葉の使い方に工夫して書く力や文章の構成を意識して書く力が弱いことが原因であると思われた。

## 2 目指す生徒像

表現を工夫し、自分の思いを効果的に伝えることができる生徒。

## 3 研究の仮説

仮説1…書いた文章を読み手の立場になってアドバイスし合うことで、言葉の使い方に工夫して読み手の心に迫る文章の書き方を身につけることができるであろう。

仮説2…段落を構成する数や段落の内容をあらかじめ示したワークシートを工夫し、相手に伝わりやすい効果的な段落の構成の仕方を身につけることができるであろう。

## 4 研究の手立て

### (1) 仮説1に対する具体的な手立て

#### ア グループで、書いた文章を校正する

文章を書き終わった後に、グループで互いの文章を校正する。言葉が足りなくて詳しく伝わらない場合の付け足し方や、分かりにくい述べ方の改善方法など、より良い文章を目指して話し合う。

#### イ 付せんを活用する

グループでの話し合いの際、自分の意見を役割ごとに付せんで色分けをする。視覚的に文章の足りない部分を理解させる。また、後日見直したときにも付せんの色で確認することができる。

### (2) 仮説2に対する具体的な手立て

## ア ワークシートの工夫

順序立てて書くことが苦手な生徒が書く順序を意識できるように、流れが視覚的にわかるようにしたワークシートを利用する。各項目に簡条書きにしていくことによって、順序を意識するようにさせる。

### 5 仮説の検証について

抽出生徒の動きや授業の最後に生徒が記述する「振り返りカード」から、抽出生徒がどのように変容していったのかを明確にすることで仮説を検証する。

### 6 抽出生徒の実態と抽出生徒に期待する姿

#### (1) 抽出生徒 A の実態

文を書くことをとても苦手としているが、教師の発問に対して自分の意見をきちんとまとめようとすることはできる。記述された文は言葉が足りず、伝えたいことを詳しく書けていなく、教師に指摘されて初めて足りなかった言葉に気付き、書き足している。

#### (2) 抽出生徒 A に期待する姿

グループ活動を通して、自分の考えだけでなく、友達の見解も取り入れていくことにより、どんなところにつまずいているかを気付かせたい。そして、友達の見解を生かしながら、文章を書くこと力を高めてほしいと考えた。

### 7 単元の構想

#### 単元の流れと支援の計画（6時間完了）

教師の働きかけ	学習（活動）内容	生徒の考えや思い	★活動に対する支援 ◆評価
	200字で文章を書いてみよう。① 課題に応じた作文を書く。		★書くときのポイントが見つけやすいように例文を工夫する。
	二つの文章を比べて、どんな点が良いか話し合ってみよう。② 比較した文章から良い点を探る。	・自分の体験を書いているので、考えを感じることができるなあ。 ・気持ちを表す言葉が工夫されていて、よく伝わってくるよ。	◆二つの文章を比較して文章を書くときのポイントを見つけることができたか。（発表・話し合いより）
	良い文章にするために必要なポイントをまとめる。 1. 行動・体験 2. 心情 3. 構成		★文章を書くために必要なポイントをまとめ、常に掲示しておく。
	ポイントに注意して文章を書いてみよう。③ ・段落が多すぎるから少しまとめてみよう。 ・心が動かされた会話を入れてみよう。 ・自分は体験したことから考えていたことが変わったな。		◆書くポイントに気をつけて文章を書くことができるか。（ワークシートより）
	友達の記事を読んで、質問やアドバイスをしよう。④ ・自分の考えに至った体験を付け足せば伝わりやすくなるかもしれない。 ・気持ちが伝わりにくいから、気持ちを別の言葉で表現してみよう。 ・段落が分かりやすくなって読みやすくなったよ。		★書き上げた文章を読み合い、どんな点が付け足しできるかを話し合わせる。
	構成に気をつけて文章を書いてみよう。⑤ ・気持ちを詳しく書くとより自分の言いたいことが相手に伝わるな。 ・体験を付け足したら、読む人が状況をつかみやすくなるかもしれない。 ・自分の考えたことは言葉を選んで表現してみよう。		◆友達の記事を読んで、足りない点を友達に意欲的に伝えることができたか。（発表・話し合いより）
	最初に書いた文章と最後に書いた文章を比べてみよう。⑥ ・気持ちを表す言葉を換えたら前よりも伝わるようになった。 ・段落の構成を工夫すれば、相手に読みやすい文章になるね。 ・自分の考えは言葉を選んで、強く主張することも大切なんだ。		★アドバイスを生かしやすくするために、ふせんを用意し、視覚的に何が必要なのかを判断できるようにする。
			◆読む人に伝わりやすい文章を書くことができたか。（ワークシートより）
			◆文章を書く際に足りなかったことは何かを振り返ることができたか。（振り返りカードより）

## 8 研究の実践

### (1) 200字を目指して文章を作る

まず初めに、「部活動の新人戦」「職場体験」「体育大会」「駅伝大会」の4つの課題から書きたいものを1つ選ばせ、200字以上の作文を書かせた。この4つを選んだ理由は、あとでグループで見せ合う際に、同じ体験をしている方が意見を出しやすいと考えたからである。200字にした理由は、文章を書くことが苦手な生徒に400字書かなければいけないという抵抗感を取り除くためである。

生徒Aは「駅伝」を選んだ。生徒Aは、今回もまず何を書こうか悩み、授業の時間の約30分を使って内容を考えていた。そして、残りの約20分で文章を書いていた。自分の目標を「書き出し」に書いたり、去年体験したことやそのとき感じたことを書いたりなど、生徒Aが良い文章を書こうと熱心に書こうとしていたことが文章から伝わってくる。しかし、目標としていた200字を書くことはできず、155文字を書いたところで時間がきてしまった。(資料1)

し	だ	る	思	私		そ	
て	か	決	っ	の		れ	「
走	か	ま	た	練	私	か	絶
り	ら	め	こ	習	は	か	対
た	、	は	と	て	は	か	に
い	私	私	だ	の	今	今	チ
と	も	の	。	目	年	年	ー
強	団	心	。	標	、	の	ム
く	体	に	チ	で	初	大	の
思	体	残	ー	あ	め	会	た
っ	に入	ソ	ム	り	て	当	の
て	い	と	の	、	団	日	に
い	ソ	も	一	去	体	の	夕
た	、	が	買	年	に	目	ス
。	チ	っ	と	の	入	標	キ
	ーム	こ	し	人	れ	だ	も
	の	よ	て	達	。	っ	フ
	一	が	走	も	そ	た	な
	人	っ	っ	見	れ	。	ぐ
	と	。	い	て	は		」

資料1

### (4) 互いの文章を校正する

次に、互いの文章を3～4人のグループで読み合い、アドバイスをし合った。自分以外の目線で文章を読めば、自分では気付かないことも指摘できるだろうと考えたからである。まず生徒に今から何を意識して友達の作文を見るのかを確認した。そして、「心情」なら緑、「行動・体験」なら赤、「段落・構成」なら黄、「訂正」なら青の付せんを使い、どんなところを改善したらよいのかを付せんに書き込むよう確認した。生徒Aは生徒B・Cの作文を熱心に読み、付せんに書いて貼っていた。生徒Aの貼った付せんに書いてあるコメントを見ると、生徒Bの作文には、緑の付せんに、「『体の動きで気持ちを伝える』ということを入れるともっと良くなると思う。」と書き入れた。また、生徒Cの作文には、「行動・体験」の赤色の付せんに、「野球がわからない人でも、その場面を想像できるようにするともっと良いと思う。」と書き入れた。生徒Aの付せんのコメントから、前時にみんなで見つけた「体の

動きで気持ちを表現できる。」、「読む人にも伝わってくるくわしさが必要。」という注意点を意識して、作文を推敲したことが分かる（資料2・3）

主題  
職場体験

主題  
新人戦

主題  
新人戦

私	は	本	を	読	む	こ	と	が	好	き	で	す。	本	を	読	ん	で						
い	る	と	色	々	な	こ	と	を	知	る	こ	と	が	で	き	る	し	。					
の	物	語	の	今	後	の	展	開	を	想	像	で	き	る	の	で	好	き	で				
す。	そ	ん	な	私	が	職	場	体	験	先	に	選	ん	だ	の	は	。						
く	利	用	す	る	新	城	精	文	館	で	し	た。											
	共	生	の	時	間		私	は	新	城	精	文	館	へ	職	場	体	験	の				
お	願	い	の	電	話	を	か	け	ま	し	た。	今	思	え	げ		仕	事					
中	で	忙	し	か	た	の	で	し	。	う	が	電	話	先	の	相	手						
の	方	の	声	が	冷	た	く			怖	い	印	象	を	感	じ	ま	し	た。				

いっしょに頑張ろう

はじめは、緊張したけれど、慣れてくると、いろいろと楽しかったです。

資料2

主題  
新人戦

主題  
新人戦

主題  
新人戦

3	年	生	が	あ	い	て	の	チ	ム	の	大	会	で	し	た。							
ま	だ	は	、	フ	ア	ー	ス	ト	を	ま	か	さ	し	て	い	ま	し	た。				
フ	ア	ー	ス	ト	だ	っ	た	けど	、	チ	ム	の	一	員	と	し	て					
自	分	の	で	き	る	こ	と	を	が	ん	び	り	ま	し	た。	試	合	や				
エ	ラ	ー	も	し	て	し	ま	っ	て	、	チ	ム	の	勢	用	気	を	く				
ず	し	て	し	ま	っ	た	し	、	バ	ッ	テ	イ	ン	グ	も	全	く	打				
ま	せ	ん	で	し	た。	け	れ	ど	、	自	分	は	、	他	人	を	一	生				
懸	命	に	接	し	ま	し	た。	す	る	と	、	チ	ム	の	一	員	が					

試合のやり方って、その場を掴んでいこうかなって思ってた。

マスの駒を守りたくて、いろいろと頑張ってた。

「はじめて、緊張したけど、慣れてくると、いろいろと楽しかったです。」

自分もチームの一員として活躍したい。

資料3

### (5) ストーリーマップを作る

グループで互いに推敲し合う中で、黄色の付せんを使って段落をどのように作ったら良いかを指摘できる生徒もいれば、どこから段落を変えたらいいのかうまく説明できない生徒もいた。そこで、「はじめ」、「なか」、「おわり」を意識できるように、ワークシートを使ったストーリーマップを作る学習をすることにした。

ストーリーマップとは、1つの段落を1つの枠で表し、枠の役割を意識して言葉を入れていけば、自然と段落が作れるものである。本単元では、「なか」の部分が2つになるように分けた。これは、生徒の文章に、時間軸が二つ存在するものや、二日間に渡って書かれているものが多かったからである。また、文章を書くことが苦手な生徒も、この基準まで書けるようにさせたいと考えたからである。ワークシートには、4つの枠を作り、それぞれの枠の役割を、「①欠如（問題点や達成したい目標）」、「②難題（乗り越えたい大切なこと）」、「③解決（難題をどのように解決したか）」、「④結末（解決後にどうなったか）」とした。そこに、自分の体験したことや思ったことを箇条書き

にし、文章にするときに、それぞれの枠の中の言葉を使って書いていけば、文章全体が4つの段落になるようにした。

生徒Aは、悩みながらも4つの枠に言葉を入れていった。箇条書きということもあり、初めに200文字の作文に取り組んだときよりも、悩む時間が少なかった。また、駅伝の練習をがんばったことをどの枠に入れたらよいかという質問を教師

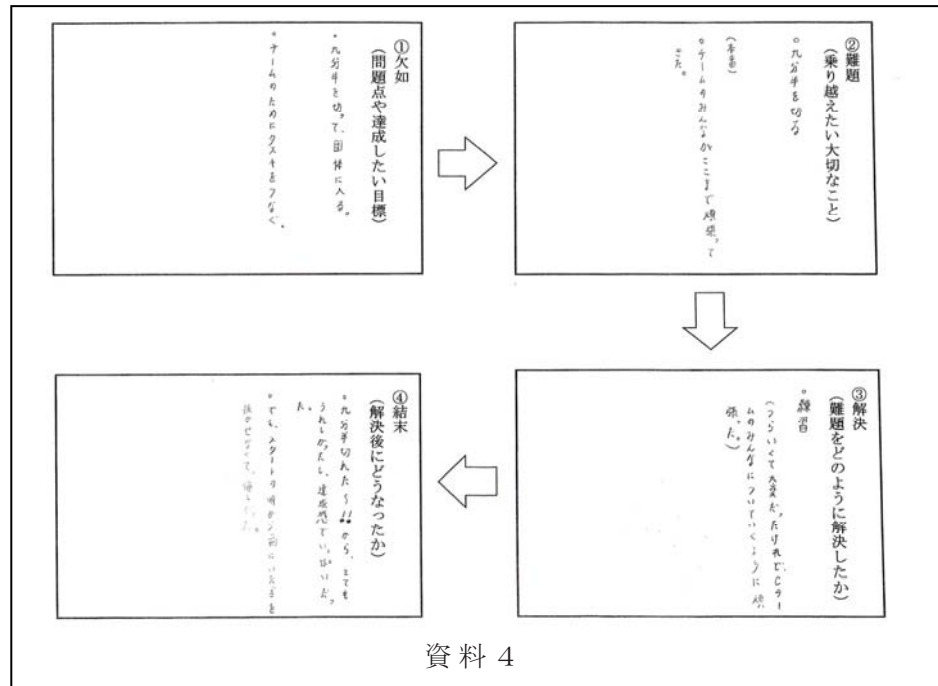
にしたことから、それぞれの項目を意識して、正しく入れていきたいという意欲を感じることができた。しかし、書き始めこそ順調だったものの、4つの枠に1つか2つ単語か文を書いただけで、満足している様子があった。他の生徒も同様であった。

(資料4)

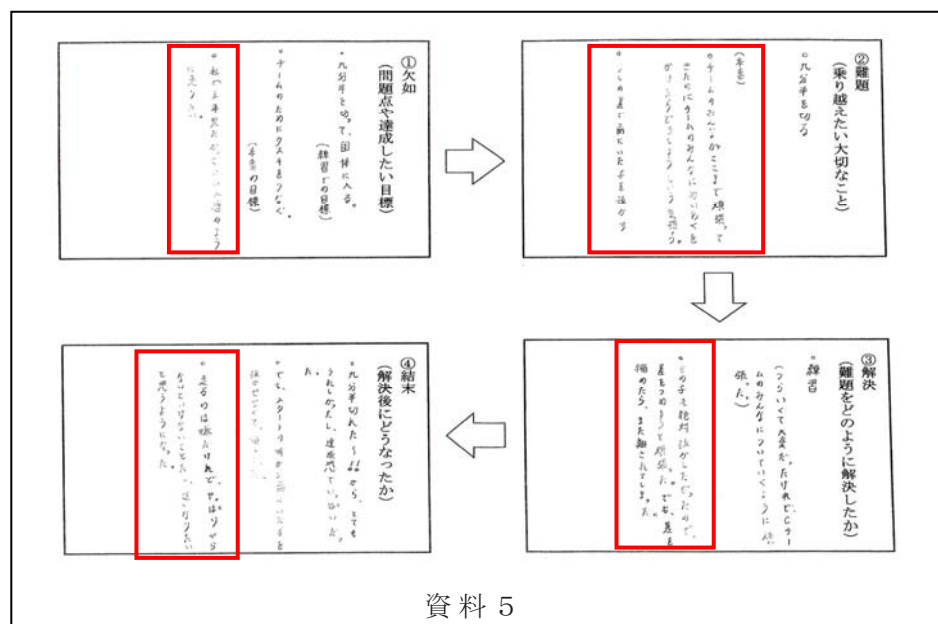
そこで、ストーリーマップをさらに充実させるために、4つの枠に「心情」や「行動・体験」がバランスよく書かれている生徒Dのストーリーマップを拡大し、

良さを考えさせた。友達の文章を推敲する際に使ったポイントを意識させるため、書かれている内容に応じて、「心情」は緑、「行動・体験」は赤の線を引いた。

生徒Aはこれを見たあと、自分のを見直し始めた。そして、不十分だと感



資料4



資料5

じたところを消して書き直したり、新しい文を書き足したりし、内容を充実させることができた。(資料5)

(6) 推敲された作文とストーリーマップをもとに、文章を書く

最後に、友達がふくらまし、付せんが貼られた文章と、ストーリーマップの2つを使って、文章を書かせた。「書き出しが分からない。」、「続きをどう書けばよいか分からない。」、「段落はいつ変えればいいのか。」などの単元の最初に多かった質問もほとんどなく、文章を書くことが苦手だった生徒も、表現の仕方について質問するくらいで、あとは付せんが貼られた文章を見たり、ストーリーマップを見たりしながら、ほとんどの時間を書く時間として使っていた。生徒Aは、主にストーリーマップを見ながら文章を書いていた。普段、何を書こうか迷って、手が止まってしまうことが多かったが、この時間は、ゆっくりではあるものの、ストーリーマップに書いてあることを文章にできたかを確認しながら書き進めていた。1時間のうちに最後まで書き終えることはできなかったが、547文字を書くことができた。生徒Aの振り返りには、書けた分量が増えたことよろこびと、もっと速く書ける力を身に付けたいという、完成を見据えた前向きな気持ちが書かれていた。(資料6)

ストーリーマップを参考に、前よしも書けたので良かった。集中して、はやく書ける力を身に付けたい。

資料 6

見	チ	そ	持	う	さ	気	イ	チ	マ	た	カ	す	て	か	後	に	り	し	の	あ	っ	分	は	私		
て	ーム	の不安な	ちで	じ	た	持	ーム	ーム	う	と	張	ーム	カ	い	か	と	ま	か	の	ソ	九	分	半	の	本	
自	のメン	な気持	スタ	う	の	ち	の	の	し	よう	し	の	一	る	き	決	と	ど	あ	そ	分	半	切	の	本	
分	バー	持ちは	トす	と	チ	ーム	の	の	い	と	か	員	は	ま	ま	め	と	と	せ	は	分	半	れ	本		
か	か	は	る	い	ーム	の	の	の	う	う	か	と	し	し	し	め	と	と	を	私	分	半	て	本		
そ	一	す	に	気	の	の	の	の	持	持	え	は	は	た	日	と	と	を	を	の	分	半	は	本		
ん	生	く	フ	持	の	の	の	の	っ	っ	た	は	は	後	私	と	と	を	を	の	分	半	は	本		
気	熱	に	き	ち	の	の	の	の	な	な	ま	は	は	た	日	と	と	を	を	の	分	半	は	本		
持	命	吹	ま	か	の	の	の	の	な	な	ま	は	は	た	日	と	と	を	を	の	分	半	は	本		
う	走	き	し	入	の	の	の	の	な	な	ま	は	は	た	日	と	と	を	を	の	分	半	は	本		
ぐ	っ	ま	ま	ソ	の	の	の	の	な	な	ま	は	は	た	日	と	と	を	を	の	分	半	は	本		
い	て	び	ま	混	の	の	の	の	な	な	ま	は	は	た	日	と	と	を	を	の	分	半	は	本		
は	ダ	を	ま	じ	の	の	の	の	な	な	ま	は	は	た	日	と	と	を	を	の	分	半	は	本		
ダ	ダ	を	ま	じ	の	の	の	の	な	な	ま	は	は	た	日	と	と	を	を	の	分	半	は	本		
と	思	を	ま	じ	の	の	の	の	な	な	ま	は	は	た	日	と	と	を	を	の	分	半	は	本		

資料 7

他にも、最初に書いた文章と最後に書いた文章を比べてみると、出だしこそ書き方が同じではあるが、駅伝の目標を乗り越える経緯や、自分の記録を計った日のこと、駅伝大会当日の様子などを具体的に書くことができた。特に、生徒Aが2つの文章を比べたときから気にしていた「心情」がどの場面にも書かれているので、読む側にとって、書き手と同じ目線になることができる文章になっていた。(資料7)

## 9 研究の成果と今後の課題

### (1) 仮説1の手立てに対して

自分の意見と友達の意見が文章を書く上での大切なポイントとなるため、責任をもってアドバイスし、自分たちで決めたポイントを、自然と意識して守ろうとする姿があった。

3つのポイントごとに付せんの色を変えることで、文章を書くときにどんなことが大切なのか、自分が書いた文章には何が足りなかったのかを、教師の手を借りなくても、自分たちの力で確認することができた。

自分の文章に友達の意見が書いてある付せんが貼られているので、教師の手を借りなくとも、友達同士で問題を解決しようとする姿が見られた。また、グループの形になっていなくても、付せんに意見を書いてくれた友達に質問をし、自分で問題を解決しながら文章を書く姿も見られた。

付せんの色に意味をもたせることで、色を見ただけで、その付せんに書かれた友達のアドバイスがどんなポイントについて書かれたものかを理解しやすい。単元の後半には、「付せんの色」＝「書くときのポイント」が定着したので、色だけで友達がどのポイントについてアドバイスしてくれたのかを理解することができていた。

### (2) 仮説2の手立てに対して

ワークシートによって、あらかじめ書く順序が決められていて、「欠如」、「難題」など、書くべきことが示されていることが、生徒たちの支援となった。長い文章を書くのが苦手である生徒や抵抗感がある生徒も、そのとき今自分が思いついた文章を、各項目に当てはめるだけで、自然な文章の流れを作ることができた。

### (6) 今後の課題

一部の生徒は、4つの枠に入れているにもかかわらず、文章は4つ以上の段落になっていた。どこまでが1つの段落でよいのかを意識させるには、教師からの別の支援が必要だと感じた。また、語彙が少ない生徒は、ストーリーマップでたくさんの事柄を箇条書きにできたとしても、いざ文章にすると

なると、つなぎに、どんな言葉を入れるべきなのかを考えてしまう。また、生徒は、「よかった」という言葉を多用しがちであるので、今後は、生徒の語彙力を高めていきたいと考える。

